

※評価は各部署による最終評価

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	計画の実施・評価の主担当者・評価の方法	目標達成のための取り組みの状況
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援	[4.2]	教務部/生徒部(生徒会) 進路指導部/学年/教科	・今まであった土曜の授業日をなくし、生徒の自由時間を確保した。(教務部) ・引き継ぎ時に、引継ぎ資料を作成するなど、いまの深志高校で取り組む意義や合理性を検証・反省して活動を計画する姿勢が各組織で見られるようになってきた。(生徒部生徒会) ・自治の精神を根拠に据えた本校での様々な経験を通して、生徒自らが自分の人生(進路)について前向きに考えるようになっていく。(進路指導部)
			「自治の校風」の具現化に向けた活動の保障と指導助言			
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	基礎学力の育成	[4.1]	教務部/進路指導部	・業者テストによる調査・分析の結果を学年会等で共有し、教科担当の教員が教科指導について検討する機会を設けた。(進路指導部) ・継続して学習習慣を確立できている生徒は、着実に学力をつけられており、面談等を通して生徒一人ひとりの指導にテスト等の結果を活用し、教科学習上の課題に対して早期に対応できるようにしている。(進路指導部) ・進路実績を上げている他県の学校への視察を通して本校の進路指導にも多くのヒントをいただいた。生徒の意識向上のために、教員もまた意識改善が必要である。その上で、見直しや改良、深化を行ってきたい。(進路指導部)
			自学自習ができる向上心・探究心の涵養			
		探究的・批判的な学びを深める	総合的な探究の時間を通じた探究心の涵養	[4.1]	学年/教科/研究委員会	・昨年の教育課程変更によって学校全体の日課がそぞいつつある。今後もよりよい教育課程に向けて研究を進めていく。(研究委員会) ・視覚教材を活用し、ロイノートなどでグループワークや全員への意見集約をして理解を深めた。(社会科) ・学習する単元の導入で生徒に問を投げかけ、グループで考えさせ、興味関心を深めることができた。(社会科) ・観察・実験に取り組むことを通じて、自然現象への興味や関心を高めるとともに、科学的に探究する力を養うことができた。(理科)
			教職員全体での探究的な学びの推進			
	進路希望の実現を図る	教育課程の研究	企業や大学、外部人材と連携したキャリア教育の充実	[4.1]	探究学習キャリア教育部	・探究学習を推進し、学びへのモチベーションの向上を図っている。(探究学習キャリア教育部)
			生徒の資質・能力を高める指導方法の研究		図書係	・職員全体で本校の探究学習の在り方について考え続け、その時々々の最適解を目指して様々な取り組みを試行錯誤しながら行い、アップデートを続けている。外部との連携、教員の負担軽減、生徒の探究学習へのマインド醸成、などが課題である。(探究学習キャリア教育部)
		計画的なキャリア教育を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発	[4.3]	進路指導部/探究学習キャリア教育部	・松本市中央図書館司書をお招きし、外部人材と連携したキャリア教育に貢献できた。(図書係) ・生徒の進路実現に有効と思われる講演会実施・資料紹介・進路指導室の環境提供等できた。また、定期考査の成績と進学大学の相関についての情報は生徒の進路指導にも有効であった。進路実績も向上して来ている。今後も努めていきたい。(進路指導部)
			企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施		学年/教科/進路希望調査/学習実態調査/進路結果	・進路講演などを通して、今後の見通しを持つよう意識づけを行った。(進路指導部) ・信大グローバル推進センターと連携し、香港の高校生との交流を行った。(外国語)
生徒の自治	自治活動を保障し自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会と指導助言	[4.3]	生徒部(生徒会)/学年	・「自治」の精神に基づき、生徒の自主性を尊重しつつ、広く社会に受け入れられる人間形成の場として、助言・指導・支援を行った。(生徒部生徒会/学年) ・生徒は各所でより良くしていこうと意欲的に取り組んでいる。教員も相談にのり、生徒を手助けする関係が各組織にある。(生徒部生徒会)	
		文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言		生活意識実態調査 他	・学校生活及び学校評価アンケートを2回実施し、生徒の声を学校運営に取り入れながら改善を図った。(学校評価委員会)	
生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間の適正化)	[3.7]	生徒部	・機会あるごとに、自転車事故・声かけ・器物損壊・あいさつについて、注意を呼び掛けている。職員が積極的に挨拶を促すよう協力していただいていたおかげもあり、挨拶の声が出てきたように感じる。(生徒部) ・本校の自転車ヘルメット着用率が高いが、ヘルメットを購入していない生徒が大きな事故を起こしてしまったことは残念であった。(生徒部生活)	
		あいさつの定着		進路指導部	・活動時間を守り、特に試験期間は学業に集中するようになってきている。(生徒部生徒会) ・睡眠時間と成績の相関など、生活実態調査から確認できることが多く、面談などを通じて生徒の意識改善に繋がられた。(進路指導部)	
		清掃・保健・交通安全指導		保健係 学年・教科	・ワックスが行き、行事前の清掃を厚生委員中心に行った。(保健係) ・模試の回数や適正配置を試みることで、部活動・生徒会活動と学習の両立が図れた。(3学年)	
安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる	[4.2]	保健係 教育サポート委員会 学年・教科他	・カウンセラーと保健部が連絡がとりやすい状況でいた。実施後の担任への報告も行った。(保健係) ・保健部・各学年と連携し、支援が必要な生徒の把握・情報共有を行い、必要に応じて外部機関と連携することで、支援を必要とする生徒へのサポートがスムーズに進むようになった。(サポート委員会) ・年2回三者面談を行い、学校と家庭の橋を共有する機会が持てた。また、面談期間以外でも保護者と密に連絡を取り、生徒を見守っていくことができた。(2学年)	
		危機管理体制の整備	[4.0]	学校安全衛生委員会	・2回の安全点検を行った。引き続き確認を行っていく。(学校衛生委員会)	
		いじめ・体罰のない学校環境の確保		健全な職場づくり推進委員会/生徒部(生活)/事務	・日々の観察と共に、生徒対象の学校生活アンケートの結果を踏まえて担任と連携し対応することができた。(学校評価委員会)	
		健全な職場づくりの推進		学校安全衛生委員会	・超過勤務、年休等取得状況などを職員で共有するとともに改善策を検討し、可能なところから取組に着手した。(学校安全衛生委員会) ・綱紀粛正、非遵行為防止に向けた研修を定期的に行った。(健全な職場づくり推進委員会)	
開かれた学校運営	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催	[4.1]	教務部	・8月と12月に面談日を設けて、保護者との情報の共有に努めた(教務部)	
		地区PTAの開催、保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施		渉外係	・拡大地区PTAを開催し、保護者と教員がざっばらんに対話できる機会の充実にも努めた。(渉外係)	
		緊急時一斉メール配信システムの活用		学年	・学年PTAを開催することができた。(3学年) ・夏期休業中、受験前後を中心に保護者・生徒面談を行うことができた。(3学年) ・必要に応じて一斉メールを活用できた。(3学年)	
学校の情報化	ICTを活用した学校環境の整備を図る	学習評価の改善と共有の充実	[4.2]	教務部/学校評価委員会	・4月と9～10月に延べ4日間授業公開を行うことで、より多くの保護者や中学生に日常の学校生活を見ることができた。(教務部) ・中学生学校説明会には職員全体で関わり、生徒とともに学校を上げて、生徒の主体的な姿を中学生や保護者にも知ってもらうことができた。(教務部)	
		保護者・地域・中学校への情報発信		保護者アンケート 他	・「校長通信」を通して行事や生徒の活動の様子を情報発信し、フィードバックを得ることができた。生徒会ブログでは、担当生徒がインタビューやアンケート実施など積極的に取り組み、中学生向けに充実した内容にすることができた。(教務部)	
		公開授業・中学生体験入学等の実施			・PTA保護者アンケートを実施し、保護者の意見を取り入れながら学校運営を進めた。(渉外係、学校評価委員会)	
学校の情報化	ICTを活用した学校環境の整備を図る	ICT(情報通信技術)を活用した学習の研究、充実	[4.6]	教務部	・生成AIを活用して、より柔軟かつ質が高い教材を作成することで、より充実した授業展開を行うことができた。(教務部)	
		一人一台端末を活用した学習活動の研究・推進		施設管理係 研究委員会	・一部生徒にオンライン授業を実施し、多様な学びに対応することができた。(教務部) ・各教室のICT機器を整備し、これらに係るハード面でのトラブルに対して迅速に対応した。(施設管理係) ・DX(ハイスクール事業への申請に向けた校内とりまとめ、採択決定を受けてのDX環境整備)により、教育設備を大きく充実させることができた。(研究委員会) ・ロイノートの有用性を検証することができた。来年度からの本格運用に向けて準備を進めていく。(研究委員会)	